

座間市で 節電効果を検証

安海のぞみ (座間市民ネット/市議)



5月12日、自治体・産業界にむけて「得する省エネ」の調査・提案活動をしている「電気カエル計画」代表の石井伸弘さんを講師に、照明と空調の切り替えによる電力削減の効果について学びました。日本の発電所は夏と冬のピーク時の空調需要を賄うために過剰な設備投資がされています。個人の努力だけでなく、まずは市民に見えやすい公共施設で空調設備を最新式のものに更新するか、ガス式ヒートポンプエアコンに移行(電気代が1/10になる)す

「電気カエル計画」を提案

加藤よう子 (座間市民ネット)



5月5日に日本の原子力発電が全て停止してから一カ月半がたちました。福島第一原発事故を教訓に、エネルギー政策の早急な転換が必要です。再生可能エネルギー開発だけでなく、今すぐできるもう一つの発電「ネガワット」、すなわち省エネルギー対策を各自自治体で進めることが、低コストで効果的な対策です。神奈川県ネット地域エネルギー政策プロジェクトでは、県内各自自治体で、この取り組みがすすむよう学習会や請願活動に取り組んでいます。

自治体から電気を変えよう

電気をカエル計画

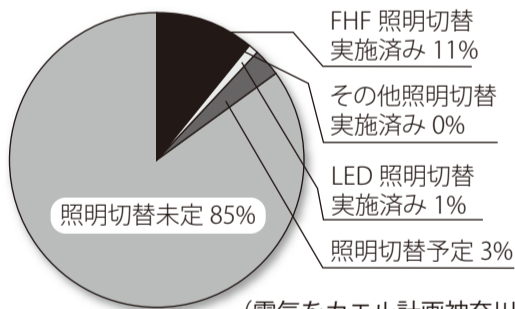
福島第一原発事故をきっかけとして岐阜・愛知の市民を中心にひろがっているエネルギーの供給と使用のあり方を変えるための提案活動。今年2月に電気をカエル計画神奈川が発足し、県内全自治体へのアンケート調査を実施。がまんしないで得する省エネ・節電を進めることができる照明と空調の切り替えを自治体や産業界に提案している。

http://www.ekaeru.jpn.org/

大幅な経費削減が期待できるとのことです。座間市では、今年度小・中学校でのエアコン設置が予定されています。ガスヒートポンプも含め、積極的な節電対策を提案していきます。

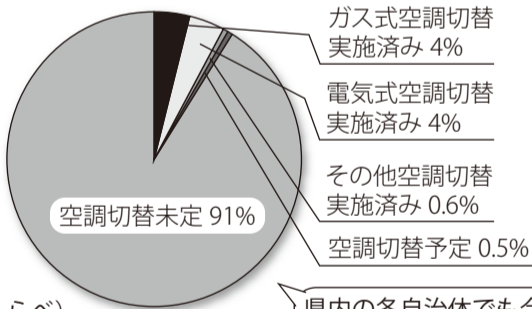
県内自治体の公共施設の節電・省エネ機器導入に関する調査結果

●照明器具の切り替えの状況



(電気をカエル計画神奈川しらべ)

●空調設備の更新の状況



県内の各自自治体でも今後、節電すべき余地は大きい

子ども・子育て新システムに対する見解 未来を拓く保育制度改革を

視点



神奈川ネット共同代表 若林 ともこ (ネット青葉/県議)

国会では、子ども・子育て新システム関連法案の審議が続いています。新システムは、自公政権時代から検討されてきた保育制度改革を、社会保障と税の一体改革に位置づけ、より積極的な財政投入を進めるものです。政局に絡めた議論で、これ以上法案を先送りすることは、政治が未来への責任を放棄するものです。新システムは、保育に欠ける子どもに留まらず、全ての子どもを社会全体で支援する、すなわち、子どもをとりまくあらゆる課題やニーズに対し、多様なサービスを選択できる環境を整えることをめざすものです。野党や保育関連団体からは、総合こども園への批判や指定制、直接契約制度を懸念する意見が聞かれますが、保育の質は民間参入を制限することで担保されるものではありません。また、認可保育所であれば良質で、認可外であれば問題があるという議論も一面的です。保育所の量的拡大を図りながら、保育の質を高めていくための具体的方策を求めます。新システムには、小規模保育や家庭的保育・派遣型保育など、地域の状況や多様なニーズにこたえる重要な施策も盛り込まれています。まずは、この新システムを進めた上で、課題を抽出し、必要であれば見直しを進めるために「地方版子ども・子育て会議」を設置するなど、より積極的な市町村の取り組みを求めたいと思います。何よりも、若い世代の貧困、子育ての孤立化、人口減少が加速する超高齢社会の課題に目を向け、あらためて、未来を拓く制度改革を推進することを強く求めます。